奈良県、市レセプションは最初から奈良ホテルと決つていて、また奈良観光の一部ともなつており、全く問題なかつた。

この京都、奈良の両レセプションには、外人と共に特別会員を招待するつもりであつた。ところが外人のみで 200 名近いことになつたので実現不可能であり、結局京都では日独会館、奈良では一般会員と共に公会堂を用いた。これまた当初の発表と違つたわけであるが、外人参加が非常に多かつたためであつて、お許しをいただきたいと思う。

以上、全く経験のない国際学会、果してどういう事になるのやら自信がなかつたけれども、とにかく成功裡に終つたことは何としても喜ばしい。学会終了後、外人参加者からの礼状は山積している。すべて会員各位および関係者の方々の絶大な御支援の御かげと、深く感謝している次第。(終)

国 際 学 会 に 参 加 し て

国立台湾大学附設医院

洪 文 治 (WEN-CHIH HUNG, M. D.)

東京で開催された第 5 回国際胸部医学会議は名実共に誠に盛大な学会であつたといえましょう。壮厳な開会式、設備のよく整つた会場、参加会員の多い事、演題の豊富、円卓討議の利点、学術映画及び医学器械展示会について、尙又、首相公邸並びに椿山荘に於ける園遊会の賑いについて、私は帰国後、既にこれらを敝地の皆に報告したところでありますが、この様な成果は、ひとえに皆様各方面の熱意ある合作の結果と指導筋の努力と認めて居ります。

Official Photograph に宮城を背景にきれいに撮影されて居りましたが、これは日本国外から参加した会員に永く記念として残るものでありましょう。開期中は毎日朝早くから夜遅くまで Scientific Programs や events に追われ、皆様とゆつくり言葉を交える余裕もございませんでした。第一生命ホールと展示会場間のバスが Down Town を通過しなければならない関係上、距離は近いが交通信号のために案外時間をとられて、1, 2 の学術映画や講演を「ミス」しなければならなかつたのは残念でした。東京のすべてがそうである様に、この学会は「大規模、活潑」という言葉等で形容されましょうが、これに対し、落付いた京都市で開催された第 7 回国際気管食道科学会は全くよい対照 Contrast でございました。日本個有の文化をよくよく保存し続けて来た淑やかな京都市で、この種の国際学会が開会された事はまことにふさわしく、私一人のみならず、外国よりの参加者皆がきつと予想外に印象的な機会であつたにちがいないと信じます。秋の好天氣に恵まれ、国際会員をのせた特急列車は気持よく東海道を駆け、一行のものを疲れさせずに、昼飯後間もなく明るい京都駅に案内しました。学会の Registration を済まし、簡単に服装を整えると間もなく、大丸デパートへ案内されました。微笑をたたえた後藤会長を始め役員方々の熱々な歓迎にすつかり「アットホーム」を感じました。ここで日本各大学の就中、耳鼻咽喉科の諸先生に御面識になりまして全く仕合せでありました。かねてから御知合いの小野会頭、西端教授、山下教授、高原教授、後藤教授、中村教授にお会いし、又、先年「ワシントン」でお目にかかつた黒須、石井、仁保、升田諸博士、台北を先に御訪問なさつた吉田博士、東京の学会からずつとお世話をお願いしておりました「ジャクソン教室」先輩の山本教授御夫妻、ペリー空軍大佐、欧米からの諸教授、其他東京の学会からの特に気管食道科学に関心を持たれておられる耳鼻科の諸氏にお会い出来、時間のすぎるのも気が付か

ず全く和やかな「ビール・リセプション」でありました。京都大学につきましては、かねてお話を伺っておりましたが、やはり背景のきれいな落付いた雰囲気の学園だという第一印象をいただく事が出来ました。13日早朝出かけ、開会式に参加しましたが、詳しい場内の様子は山本教授が、日本医事新報によく御記述なつておられますので省略させていただきます。故ジャクソン老教授追念の目禱をこの専科の集団が、この学会で行つたのも気管食道科学史上に京都学会が永く残る事でしよう。

Chevalier L. Jackson 教授が御来会出来なかつたのは、くれぐれも残念でありました。A 会場は両日共に満員の盛況で、且又、演者が張切つて十分に発表が出来た様でありましたのは、他の学会ではあまり見られない事でありましょう。私も第2日目に第84番の演題で、かねてからの臨床経験を発表させて頂きましたが、時間を超過しておりましたのにも不拘、結論迄省略なしにゆつくりした気持ちで発表させて頂きました事は深く印象に残っておりますし、会場委員（確かに切替教授と高原教授の様でした）に感謝しておりますと同時に、又、結構な記念品を下さいました後藤会長にも感謝しております。演題は勿論喉頭気管食道と、又基礎的研究並びに臨床成績を広く「カーバー」し誠に多彩で興味の深いものでありました。大多数の演者は「目に訴える」Demonstration に努力しておりました様であります、殊に国際学会では「目を通じての」発表方式が「より十分に」「より完全に」「より印象的に」意志を通ずる重要な方法だと、つくづく感ぜさせられました。直達鏡下の Color movie は気管食道科学を学ぶ私共には attractive で現代この専科の一大成就といえましょう。閉会に臨んで Holinger 教授から日本の皆様に、教材用として優秀な endoscopic movie が御寄贈なされましたのは御同慶に堪えません。fine speciality の学会の学問的な部分は両日の午前だけで順調に終えましたが、各参加者にどれだけ有益であつたかは、皆の感想を総合して見れば明白でありましょう。半日を家族つれだつて団体で、観光に、遊覧に、親睦に、元気に過す事が出来たのは、充分に国際学会の目的が達せられており、今迄経験しました学会の中でも特になつかしく感銘しておりました。

京都市での午餐は、確か有名な鮎鶴レストランであつたと記憶しておりますが、あの大広間で、欧米からの方々も「タタミ」の上で、きゆうくつそうでなく座を占められ、氷柱を立て、うちわをあおぎながら、所謂「季節はずれ」の鋤焼大会で賑わつたのも面白く、鋤焼の味以上の味を皆が覚えたにちがひなかつたのでございます。京都市内観光では、数多い historical な名所旧蹟を代表した東本願寺、二条城、金閣寺、平安神宮等の見学で「ガイド」の熟練した技巧で、短時間の間に京都の「アウトライン」を皆のものに把握させたと思われました。絵葉書や映画等を通じて想像する京都市も、こうして実地に見学すれば、誠に印象に残る所が多い様でありました。都ホテルに於ける晩饗会では、宴会場で日本舞踊が上演され「ギオン小唄」の合唱等も参加者に対する京都学会からのお土産の一つでありました。奈良への「ドライブ」「鹿寄せ」等では、皆のものは一寸も学会後の疲れを見せず、奈良ホテルで昼食休憩後、更に春日神社、東大寺の大仏参観等もよい土産話となつた事でありましょうし、カメラ撮影大会の赴きがありました。要するに前後3日に亘る学会ではありましたが、学問の方面は勿論、色々な方面から見ましても、収穫の多い印象深い学会であつた事は参加者の皆が同感であつた事でしょう。帰国前に東京で小野会長を始め颯田、佐藤、北村、白岩、大藤諸教授、斉藤、根津諸氏等、本気管食道科学会の各位に御面談できて全く愉快でありました。最後に本文を通じまして、貴国の本学会が益々御発展の程お祈り申し上げます。

(第8回国際気管食道科学会開催に関する通知を受取つた日、台北にて、1月20日)